

CORPORATE PROFILE

2023/2024



経営理念

JR四国は、四国における基幹的公共輸送機関としての役割を担っていることを認識し、安全・正確・快適な輸送を提供するとともに心のこもったサービスに努め、お客様に喜んで利用していただける企業を目指します。

また、会社の持つ人的・物的能力を最大限に発揮し、四国に根ざした会社として自立・発展を期するとともに、広く四国の経済・文化の向上に寄与することに努めます。

行動指針

- 1 安全・正確・快適な輸送の提供に努めます。
- 2 お客様に感謝し、真心のこもったサービスの提供に努めます。
- 3 未来に挑戦する活力ある職場づくりに努めます。
- 4 幅広く叡智を結集し会社の自立・発展に努めます。

JR四国グループコンプライアンス指針

- 1 私たちは、内外の法令や社内規程を遵守し、社会的良識と高い倫理観を持って行動します。
- 2 私たちは、安全の確保を最優先し、お客さまに安心してご利用いただける商品、サービスを提供します。また、お客さま情報をはじめとする各種情報の適正な保護、管理を徹底します。
- 3 私たちは、人権を尊重し、安全で働きやすい環境を確保します。
- 4 私たちは、透明性の高い公正で健全な関係を築き、適正な取引を行います。
- 5 私たちは、社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ適正に開示します。
- 6 私たちは、環境保全に積極的な姿勢で取り組み、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。
- 7 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは、一切の関係を遮断します。
- 8 経営トップは、本指針の精神の実現が自らの役割であることを認識し、本指針の周知徹底を行います。また、実効性を確保する体制を築き、企業倫理の向上を図ります。
- 9 本指針に反する事態が発生したときは、経営トップ自ら問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会へ迅速かつ的確な情報の開示と説明責任を果たし、自らを含めて厳正な対応を行います。

CONTENTS

運輸セグメント(鉄道事業)

安全・安定・安心の提供	3
安全への取り組み	5
四国に広がる鉄道ネットワーク	7
お客さまの利用しやすい 鉄道を目指して	9
快適で楽しい旅のご提案	11

運輸セグメント(バス事業)	13
ホテルセグメント	14
駅ビル・不動産セグメント	15
飲食・物販セグメント	16
建設セグメント	16
ビジネスサービスセグメント	17

四国とともに歩む

地域連携への取り組み	19
環境保全への取り組み	20
JR四国について	
経営自立に向けた取り組み	21
会社概要	23
JR四国のあゆみ	24

～「将来のありたい姿」の実現を目指して～

代表取締役社長 西牧 世博



JR四国グループは、「将来のありたい姿」として「鉄道を中心としたモビリティの提供及びまちづくりを通じた様々な事業を展開し、交流人口の拡大と地域の発展に貢献するとともに、新しい価値・サービスの創造にチャレンジすることで、従業員が誇りを持ち、生き生きと働ける企業グループ」を掲げています。

人口減少や災害激甚化、感染症流行など経営環境が大きく変化する中、「将来のありたい姿」を実現するため、持続可能な経営体質を構築する過程として長期経営ビジョンと中期経営計画を位置づけ、事業運営の根幹である安全・安心・信頼の確保を今後とも積み重ねつつ、以下のミッションに沿ってグループを挙げた最大限の経営努力を推し進めます。

また、当社単独では対処できない課題は、国、地域、ご利用の皆様等関係者のご理解・ご協力を得て解決してまいります。

ミッション

- ◎地域とともに、「公共交通ネットワークの四国モデル」を追求する
- ◎訪れたい・暮らしたいと感じる、にぎわいとおもてなしにあふれる四国をつくる
- ◎新しい価値・サービスの創造にチャレンジする

長期経営ビジョン2030「Good Challenge」では、以下の基本方針を定め、2031(令和13)年度の経営自立を目指します。

長期経営ビジョン2030 基本方針

I 事業運営を支える土台づくり

- ◎安全・安心・信頼の確保
- ◎生き生きと働ける職場づくり
- ◎グループの企業価値向上

II 経営基盤強化

- ◎鉄道運輸収入の安定的な確保
- ◎省力化・省人化による生産性向上
- ◎非鉄道事業における最大限の収益拡大

III 地域等関係者との連携・協力

中期経営計画2025は、長期経営ビジョン実現に向けた構造改革第一段階と位置づけ、各種施策を展開します。これまでの組織風土にとらわれず、「変えること」への前向きなチャレンジが評価される文化をつくり、グループが一体となって変革を加速し、経営課題に立ち向かいます。

足元では経済活動の正常化の動きが継続する一方で、資源価格の高騰など、不透明な経営環境が続くと想定されます。このようななかであっても、2031年度の経営自立に向け、支援措置を活用しつつ、長期経営ビジョン2030及び中期経営計画2025の各種施策を着実に進め、経営基盤強化を図るとともに、四国内外の交流人口の拡大や四国の発展に貢献してまいります。

今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

安全・安定・安心の提供

列車の安全輸送を支える



1 出発信号確認

JR四国は、すべてのお客様に安心してご利用いただける鉄道を目指して、365日・24時間体制で線路・車両の設備を常に健全な状態に維持する保全作業と保守点検をはじめ、全従業員を対象に、安全に対する意識、責任の重さ、的確な判断力を指導するなど安全教育を徹底し、あらゆる安全確認のプロセスを厳しく検証しています。

列車の運行管理については、1991年に列車の進路や信号などを遠隔操作・一元管理するCTC(列車集中制御装置)化を全線で達成しました。日々の列車監視を行う指令室は四国内に5箇所あり、1997年5月には、運行監視、運行計画及び統計管理の各業務の省力化と柔軟な拡張性を持ち、運行管理の質的向上を図った運行管理システムを導入した高松CTC指令室が完成し、その後2006年8月には宇和島駅制御所(予讃線)、2008年9月には阿波池田駅制御所(土讃線)、2013年4月には宇和島駅制御所(予土線)においてPRC(自動進路制御装置)化を行いました。

防災対策としてJR四国管内には、風速計を24箇所に設置しています。特に長大橋を走る瀬戸大橋線に関しては、橋上での強風に対する備えとして、橋りょう部6箇所に風速計を設置し、風速が25m/s以上になると風速計と連動している信号が赤になり、列車を安全な場所に停車、強風が収まってから運転を再開する仕組みになっています。地震対策では、13箇所に設置している地震計に加えて、2009年3月には「早期地震警報システム」を導入し、大きな揺れが予想される区間を走行している列車に対し無線等を使用して地震の発生前に自動的に緊急停車を指示します。

このほか降雨対策として雨量計を65箇所に設置しており、大雨が降った場合には列車の徐行や停止を行うようにしています。

また、事故・災害に対する即応体制を確立するための「総合事故対策訓練」や地震発生に備えた「地震・津波発生時の避難誘導訓練」を毎年実施しているほか、警察や消防等関係機関と密接な連携をとりながら、安全運行確保の深度化を図っています。



2



4



3

2 松山駅高架化事業 3 脱線復旧訓練 4 工場での台車入れ作業



5



6



8



7



9

5 避難シューターを使用した避難誘導訓練 6 運転士の出区前点検 7 駅での入換作業 8 工場での車両点検 9 瀬戸大橋での線路点検

安全への取り組み

JR四国では、「安全の確保」が事業運営の根幹であり、すべてに優先する最重要課題であると認識し、すべてのお客様に安心してご利用いただける鉄道を目指して、輸送の安全維持・向上に取り組んでいます。安全に関する設備投資については、踏切の安全性向上対策、落石や土砂崩壊などの防災対策、ロングレール化やPCマクラギ化などの軌道強化、老朽化した車両や設備の維持・更新などを計画的に行っています。

踏切の安全性向上対策

踏切事故を防止するため、警報機や遮断機のない踏切の第1種踏切(警報機、遮断機付)への改良や廃止、踏切内でのトラブル(車の立往生など)が生じた場合に列車に踏切内の異常を知らせる「障害物検知装置」「踏切支障報知装置」の設置、踏切の視認性向上を図るための踏切警報灯の両面化や全方位警報灯の導入など、踏切保安設備の整備を自治体等と協議しながら、計画的に推進しています。

また、直前横断などの無謀通行による事故を防ぐために「踏切安全通行PR活動」の実施や自動車ドライバーを対象とした啓発CMのテレビ放映を行うなど、ハード・ソフト対策に積極的に取り組んでいます。



踏切障害物検知装置



踏切安全通行PR活動



全方位警報灯



踏切事故防止啓発CM



踏切事故防止啓発ビデオ動画

防災対策

落石や集中豪雨による土砂災害などの防災対策については、定期点検や防災点検等により斜面の状況を把握するとともに、優先度の高い箇所から落石土砂崩壊対策を実施しています。



防災対策の一例(のり面防護工)



防災対策の一例(落石防止網)



「安全報告書」

安全報告書は、輸送の安全を確保するために講じた取り組みや改善などの実績を、お客様に対してお知らせするものであり、2007年から毎年作成してホームページで公表しています。

【ホームページURL】
<https://www.jr-shikoku.co.jp/>

項目

- 安全基本方針
- 安全管理体制
- 安全重点施策
- 事故等の発生状況
- お客さま等との連携

安全教育

教育専門施設「研修センター」において、駅係員、乗務員、指導者及び専門技術者等、新人から幹部社員までの幅広い研修を実施しています。特に鉄道係員に対して、安全に対する意識、責任の重さ、的確な判断力を指導するなど、安全教育を中心とした各種教育・訓練などを行っています。

また各職場単位でも職場内教育を実施しており、一例として運転士の教育・訓練には車両事故や踏切事故などの異常時を再現し、より実践的な訓練が出来る乗務員訓練用シミュレータを導入し、活用しています。



乗務員訓練用シミュレータ



教訓（三つの重大事故）

安全継承館の設置

2020年4月、研修センター内に従来の「事故展示室」に替わる安全研修施設として「安全継承館」を設置しました。この安全研修では、「①安全の大切さや命の重みと社会との繋がり、②人間のヒューマンエラー特性とその限界、③過去の事故事例や事故防止の歴史、④何気なく行っている行為への新しい気づき」について考えることで、「過去の事故の風化防止」と「安全意識の醸成及び向上」を図っています。

各種訓練

毎年、脱線など大規模な事故を想定した総合事故対策訓練を実施しています。また、南海トラフ地震などの発生時における津波災害の被害を最小限にとどめるための避難・誘導訓練を警察や消防等関係機関との連携のもと毎年実施するほか、瀬戸大橋上やトンネル内での異常事態発生に備えた異常時取扱い訓練を行うなど、各種訓練を計画的に実施しています。



総合事故対策訓練



地震津波発生時の避難誘導訓練

安全推進運動

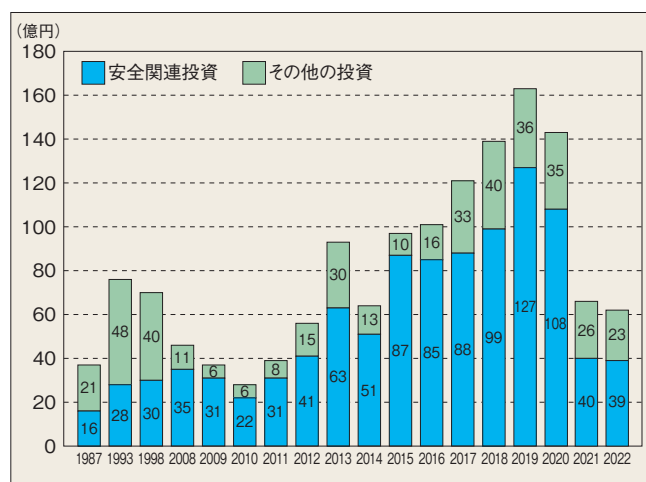
安全推進運動は、「事故の芽を摘みながら安全文化を根付かせる取り組み」です。これまで、事故防止体制の構築を目指し、安全のPDCAサイクルを活かした再発防止や「ヒヤリハット運動」の推進により、グループ会社も含めた安全文化の確立に取り組んできました。

また、2017年度からの「中期安全推進計画」により、ハード・ソフト両面からの取り組みを計画的に推進してきた結果、一定の成果を上げてきていることから、更なる安全の確保に向け、2020年度から5年を期限とする新しい「中期安全推進計画」を策定し取り組んでいます。この「中期安全推進計画」では、「行動基準」と「数値目標」を掲げ、「行動基準」を確実に実践することで安全文化を根付かせること、並びに「数値目標」を達成することにより、お客様や従業員等の命を守るという「主目標」の達成に向け全力で取り組んでいます。

安全文化とは「組織と個人が、安全を最優先にする思考・行動をする文化」であり、安全文化の定着のためには、業務上必要となる業務知識やルールをしっかりと教育するとともに、常日頃から作業環境におけるリスクを発見し、対策を講じ、その対策の風化を防止して、常に改善を加え「PDCA」サイクルを回していくことにより、安全文化を根付かせていく職場風土作りが大切です。

安全関連投資

安全に関する設備投資は、会社発足以来、毎年一定水準以上の規模で実施しており、緊急度や設備の老朽化の進行度などを考慮して計画的に行っています。



設備投資額

四国に広がる鉄道ネットワーク

より安心で、より便利で、より快適な鉄道ネットワークづくりを目指します

鉄道事業においては、“安全”“安定”さらに“安心”できる輸送の確保を前提に、お客さまから選んでいただける「より安心、より便利、より快適」な交通機関を目指しています。1987年4月の会社発足以来、高速化による都市間移動の時間短縮を目指して車両の新製、列車本数の増加を進めるとともに、乗り心地の向上や接続改善など、鉄道ネットワークのポテンシャルを高めてきました。

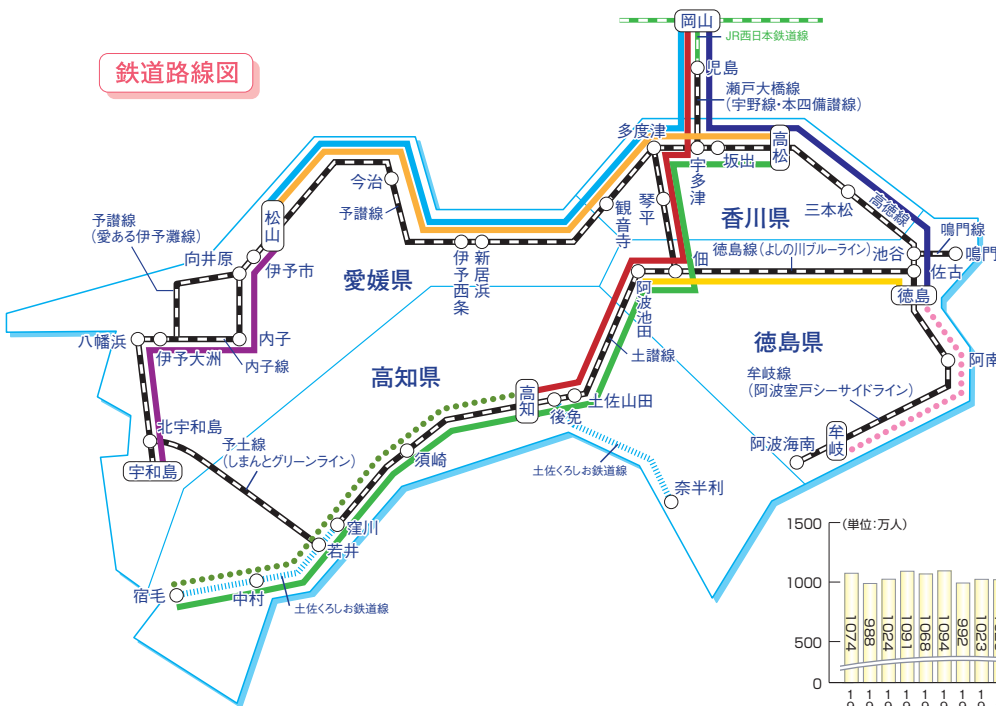
現在保有する車両のうちJR発足後の導入車両の割合は約7割、なかでも特急車両では約9割となっています。また、曲線通過速度の向上のため車体を傾ける、制御付自然振り方式や空気バネ式車体傾斜システムを特急車両に採用しているほか、「人に優しい車両」を基本コンセプトに、リクライニングシートや転換シート、バリアフリーに対応したトイレなど、お客さまに快適にお過ごしいただくための工夫を行っています。さらに、訪日外国人をはじめとするお客さまの利便性向上を図るために、一部の特急車両、マリンライナーに無料公衆無線LANサービスを導入しています。

ダイヤ改正は、2022年3月の実施で、会社発足以降40回を数えることになり、1日の列車運転本数は629本から942本へ、そのうち特急列車等は85本から199本へと大幅に増発、主要な線区では、特急列車の1時間ヘッド化を達成しています。

また、単線区間での駅構内の一線スルー化や曲線部での安定した高速走行が可能となる振り式特急車両の導入により、最速で、高松～松山間を2時間19分、高松～高知間を2時間11分、高松～徳島間を58分で結び、四国内の各都市及び岡山、本州方面との鉄道ネットワークを形成しているほか、通勤・通学等にご利用いただくお客さまの利便性向上に向けた増発や停車駅の追加も実施しています。



鉄道路線図

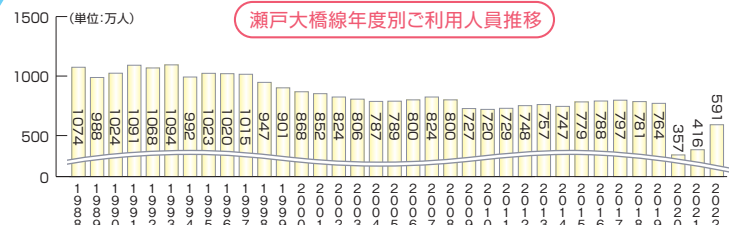


- JR四国鉄道路線
- JR西日本鉄道路線
- 土佐くろしお鉄道路線

【主な特急列車運転区間】

- 【しおかぜ】岡山～松山間
- 【いしづち】高松～松山間
- 【宇和海】松山～宇和島間
- 【南風】岡山～高知間
- 【しまんと】高松～高知・中村間
- 【あしずり】高知～中村・宿毛間
- 【うずしお】岡山・高松～徳島間
- 【むろと】徳島～牟岐間
- 【剣山】徳島～阿波池田間

瀬戸大橋線年度別ご利用人員推移



8600系特急電車

予讃線の電化区間で運行されている特急列車の全電車化を目的とし、2014年6月23日にデビューしました。従来の2000系、8000系とは異なり、JR四国では初めて空気バネ式車体傾斜システムを採用しています。

また、バリアフリーガイドラインの内容に沿って、車いすスペースや車いす対応の多機能トイレ等を設置しています。

さらに、より便利にご利用いただけるよう、全座席へのコンセント設置や背面テーブルの大型化等、座席設備の拡充も図っています。



多機能トイレ(車いす対応)

●運転区間 特急「しおかぜ」岡山～松山間
特急「いしづち」高松～松山間



車いすスペース・車いす対応座席

8000系特急電車

1993年3月の予讃線、高松～伊予市間全線電化開業に先駆け、1992年9月に岡山・高松～新居浜間で最高速度130km/hの制御付振子方式を採用した特急電車としてデビューしました。

2023年より、デビュー以来2回目のリニューアルが行われ、外観は「しおかぜ」などで活躍する8600系と同様にオレンジやグリーンを採用し、内装はグリーン席と指定席の各座席、自由席の壁側にコンセントを設置するほか、和式トイレを全て洋式に変更するなど、大規模な更新が行われます。



リニューアル後の外観(イメージ)

●運転区間
特急「しおかぜ」岡山～松山間
特急「いしづち」高松～松山間

2700系特急気動車

カーブが多い線区での乗り心地向上等を目的に制御付自然振子方式を採用し、環境にやさしい排気ガス有害成分を大幅に低減したエンジンを搭載しています。室内は、LED照明や全座席コンセントの設置の他に、各車デッキに大きな荷物がおける荷物置き場を設置し快適性を高めています。

また、土讃線アンパンマン列車については、2020年7月より、これまでの2000系気動車から2700系気動車にバトンタッチし、デザインを一新して「あかい・きいろいアンパンマン列車」として活躍中です。



©やなせたかし/フレール能-TMS-NTV

●運転区間(2700系)
特急「南風」岡山～高知間
特急「しまんと」高松～高知・中村間
特急「あしづり」高知～中村・宿毛間
特急「うずしお」岡山・高松～徳島間

2000系特急気動車

曲線でも高速走行が可能な世界初の制御付振子方式を採用した特急気動車として、1989年3月より土讃線で運転を開始しました。

2700系気動車の登場により、土讃線特急南風号を引退し、現在は主に予讃線特急宇和海号と土讃線特急あしづり号を中心に活躍しています。



●運転区間(2000系)
特急(宇和海)松山～宇和島間
特急(あしづり)高知～宿毛間

2600系特急気動車

●2600系運転区間
特急「うずしお」高松～徳島間

お客様の利用しやすい鉄道を目指して

お客様に安心して、喜んで、末永くご利用いただけるように



様々な交通機関の中からJR四国を選んでいただいたお客様に感謝し、安心して、喜んで、末永くご利用いただくため、「サービスアップ計画」を推進し、CS(お客様満足度)の向上を目指し、JR四国グループ一体となって、お客様目線に徹した心のこもったサービスの提供に努めています。

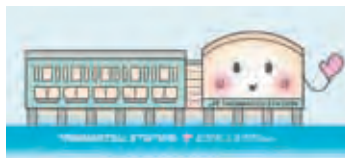
お客様に優しい駅

駅設備では、自動改札機や指定席券売機、オペレーターと対話してきっぷ購入が可能で、筆談にも対応できる「みどりの券売機プラス」の設置やICカード、無料Wi-Fiサービスの提供等、お客様に便利にご利用いただけるよう整備を進めています。また、訪日外国人のお客様が快適にご利用できるよう、英語・中国語・韓国語を中心とした案内板の表記等の整備等を行っています。

ソフト面では、お客様からお寄せいただいたご意見やご要望を積極的にサービス改善に反映させる取り組みを行う他、災害や事故等により正常な列車の運転ができない場合を想定した、お客様対応の訓練等を実施しています。

「おもてなしの心」でお客さまをお迎えし、「笑顔」を四国中にお届けできるよう、サービスアップのシンボルである駅舎のキャラクター

「SHIKOKU SMILE STATION ♡」の展開や、微笑みの妖精「すまいるえきちゃん♡れっちゃん♡」の活動を行っています。



(イメージ)



1 高松駅改札口

2 車イス介助

3 JR四国イメージキャラクター「すまいるえきちゃん、れっちゃん」

4 鉄道案内所

5 筆談対応可能なみどりの券売機プラス



3



4



5

チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の開発



2021年3月に発表した「長期経営ビジョン2030」の中で、経営基盤の強化策として省力化・省人化による生産性向上を目標に掲げ、人手不足などを踏まえた機械化等による販売体制の見直しを進めています。

昨今のデジタル化・キャッシュレス化のニーズを踏まえ、お手持ちのスマートフォンから「いつでも・どこでも」、「キャッシュレス」できっぷが買える、「きっぷ画面の提示」で列車に乗れる新たなサービスとして、チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」を2022年11月にリリースしました。

アプリの名称「しこくスマートえきちゃん」は、お客さまと当社の接点になっている公式イメージキャラクター「すまいるえきちゃん♡」とコラボレーションし、お客さまと交通機関、鉄道とバスといった交通機関相互の接点である「えき」を身近に、スマートに、毎日使っていただけるチケットアプリを目指す想いと、当社に限らず四国の様々な交通機関で利用できるチケットアプリに育てほしいとの願いを込めて名付けられました。

アプリのリリース後も利便性向上を目指したアップデートを随時行っています。2023年4月からは特別企画乗車券に加えて、普通乗車券や自由席特急券、通勤・通学定期券など取り扱い券種を拡大し、より便利なアプリへと進化しました。

将来的には、モビリティ^{*1}間の連携などMaaS^{*2}構想の実現を通じて、本アプリが四国エリアを中心とした公共交通ネットワークの維持や充実の一助となることを期待しています。

※1…移動手段のこと。

※2…「Mobility as a Service」の略称で、いろいろな種類の交通サービスを、需要に応じて利用できる一つの移動サービスに統合すること。



■きっぷ画面 (イメージ)

「これからの鉄道利用スタイル」



■QRコード専用改札機 (高松駅)



■車内改札の様子

快適で楽しい旅のご提案

環境にやさしい鉄道で便利で楽しく快適に

鉄道の魅力を最大限に活かし、快適で楽しい列車の旅のご提案をいたします。

伊予灘ものがたり

2014年7月26日から運行を開始したJR四国初となる本格的観光列車です。愛媛県の松山～伊予大洲・八幡浜駅間を土日祝日を中心に運行しています。運行開始以来18万人以上のお客さまにご乗車いただき、2022年4月2日に新車両となってリニューアルデビューしました。伊予灘の絶景を間近に眺められる予讃線の海回り区間(愛称:愛ある伊予灘線)を走り、車内では愛媛県産素材にこだわったお食事を楽しむことができます。レトロモダンをコンセプトにした車両は社員がデザイン、設計を担当しました。列車が通過する時刻にあわせ、地元の方々が行ってくださる様々な歓迎イベントが大きな魅力のひとつです。また、アテンダントによる心のこもった手作り感のあるおもてなしがお客さまの心に残る旅を彩ります。



沿線地域の方々があたたかくお出迎え



穏やかな伊予灘の眺め



専属アテンダントがおもてなし



車内でお召し上がり頂けるお食事の一例(イメージ)

四国まんなか千年ものがたり

2017年4月1日から運行を開始し、香川県の多度津・普通寺・琴平～徳島県の大歩危駅間を土日祝日を中心に運行しています。この区間は弘法大師の生誕地普通寺や、金刀比羅宮(こんぴらさん)、平家落人の伝説が残る秘境の祖谷地方など、千年を超える歴史的な文化や景観が残されています。車両は「日本のたたずまい」をコンセプトに古民家をモチーフにしており、「四季の移ろい」を表現し、デザイン、設計は社員が担当しました。

車内では美しい渓谷の風景や香川県、徳島県の地元素材にこだわったお食事を楽しむことができ、アテンダントによる心を込めたおもてなしや沿線の地域の方々の歓迎など一期一会のご縁を大切にしてお客さまをお出迎えしています。



走行中の「四国まんなか千年ものがたり」



琴平駅専用待合室ラウンジ「TAIJU」



車内でお召し上がり頂けるお食事の一例(イメージ)



専属アテンダントがおもてなし

志国土佐 時代(トキ)の夜明けのものがたり

2020年7月4日に運行を開始したJR四国3本目の観光列車です。高知県の高知～土佐久礼・窪川駅間を土日祝日を中心に運行しています。「文明開化ロマンティシズム」を車両のデザインコンセプトとし「伊予灘ものがたり」「四国まんなか千年ものがたり」と同じく社員がデザイン・設計を担当しました。車内では、沿線の高校生など地元の方による工夫を凝らしたおもてなしや、高知の食材を知り尽くしたシェフのこだわりのお食事を楽しめるほか、専属のアテンダントによるきめ細やかなサービスが魅力です。高知の「景色」「豊かな食」「温かな人柄」に出会える「土佐流のおもてなし」を存分に楽しむことのできる列車となっています。



車両とアテンダント



車内イメージ



車内でお召し上がり頂けるお食事の一例(イメージ)



専属アテンダントがおもてなし

藍よしのがわトロッコ

2020年10月10日から運行を開始し、徳島県の徳島～阿波池田駅間を春秋の土日祝日を中心に運行しています。Ai(藍)の字体を阿波踊りの躍動感に見立てたシンボルマークをあしらい、木綿地のテクスチャーをラッピング柄とした柔らかな風合いをもった車両外観で、こちらもデザイン、設計は社員が担当しました。車内では、沿線の歴史や文化を紹介するほか、徳島ならではのお土産、軽食、ドリンク等を販売しています。吉野川や田園が織りなすのどかな車窓風景とトロッコ列車ならではの爽快感をお楽しみいただける列車となっております。



「藍よしのがわトロッコ」外観



車窓からの景色

アンパンマン列車

ファミリー層など交流人口の拡大を目的に、お子さまに大人気の「それいけ!アンパンマン」を起用した「アンパンマン列車」を運行しています。土讃線の特急「南風」では2700系特急形気動車を採用した新型車両として、2020年7月から「土讃線あかい・きいろいアンパンマン列車」が運行開始し、予讃線の特急「しおかぜ」「いしづち」などでは初の特急形電車となる「予讃線8000系アンパンマン列車」が、予讃線の特急「宇和海」では「予讃線宇和海アンパンマン列車」がそれぞれ毎日運行しています。

また、土休日や大型連休等を中心に、お子さまが靴を脱いで遊べる「プレイルーム」を車両に備えた「ゆうゆうアンパンマンカー」や、瀬戸内海の潮風を受けながら瀬戸大橋が渡れる「瀬戸大橋アンパンマントロッコ」を運行しておりご好評をいただいています。

さらに、アンパンマンの世界観を駅でも感じていただくため、高知駅に「アンパンマン列車ひろば」を設置するなどの展開を行っています。



■土讃線あかい・きいろいアンパンマン列車
■土讃線あかい・きいろいアンパンマン列車「アンパンマンシート」



■瀬戸大橋アンパンマントロッコ



■予讃線8000系アンパンマン列車



■ゆうゆうアンパンマンカー「プレイルーム」



■アンパンマン列車ひろば メインオブジェ

予土線3兄弟

Yodosen Fun Fun Trains

愛媛県の宇和島駅と高知県の窪川駅を結ぶ予土線(しまんとグリーンライン)では、「予土線3兄弟」をはじめとするユニークな観光列車を6種類運行しています。

予土線3兄弟の長男である「しまんとトロッコ」は、四万十川流域の雄大な自然や、心地よい風を直接感じることができるトロッコ列車です。地元特産品の車内販売やガイドによる沿線案内が好評です。次男の「海洋堂ホビートレイン かっぱうようよ号」は、四万十川を泳ぐかっぱをイメージした外観で、車内には喋るかっぱの親子の人形を設置する等かっぱの世界を満喫することができます。そして三男の「鉄道ホビートレイン」は、0系新幹線を再現した外観で、車内には鉄道模型を展示しています。実際に投函できる特設ポストや0系デビュー当時に使用されていたシートも設置しており、遊び心あふれる列車です。この他にも「鬼列車」「すまいるえきちゃん号」「おさんぼなんよ号」が走っており、乗って・見て楽しい列車たちです。



■しまんとトロッコ



■海洋堂ホビートレイン かっぱうようよ号



■鉄道ホビートレイン

個人旅行から団体旅行まで、素敵な旅をご提案

旅行業事業

観光列車を利用したツアーを中心に、主に四国内の旅ツアーを数多く提供しており、そのほとんどは店頭・電話受付のほか、インターネットの「JR四国ツアー」Webでも販売しています。

また、四国内の観光列車、宿泊施設、観光等をまとめて仕入れて行程を組み立て、旅行会社に提供するユニット販売の取組みも拡大しています。

掲載のパンフレットは、2023年8月現在です。



トクトクきっぷ

ビジネスやご旅行でご利用いただける「Sきっぷ」「阪神往復フリーきっぷ」や、観光でご利用いただける「四国フリーきっぷ」などおトクで便利なきっぷを発売しています。

往復JR券とお食事をセットにした「駅長推薦あじな散歩道」は四国各地の魅力的な食と列車旅をおトクにお楽しみいただけます。



着地型観光素材のご提案

JR四国では、鉄道による四国へのご旅行で、駅到着後の観光をより充実したものとするため、観光二次アクセスやガイド付ツアーなどの、魅力的な着地型観光素材をご提案しています。

各種会員制度

会員制度として、「JR四国ツアーWEB会員」、「JR四国ジバング倶楽部」があります。

訪日外国人向け商品

海外からのお客さまに四国の旅をよりいっそう楽しんでいただけるよう、訪日外国人向け鉄道パス「ALL SHIKOKU Rail Pass」「KAGAWA mini Rail & Ferry Pass」を発売し、英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語対応のホームページにより、外国人のお客さまへの情報提供を行っています。



安全・安心輸送を大前提に、お客様に快適にご利用いただけるサービスの向上に取り組んでいます

▶ グループ会社 ジェイアール四国バス(株)、四鉄運輸(株)



日本一のバス会社を目指して

ジェイアール四国バス(株)では、四国各地と東京、京阪神、岡山、広島などを結ぶ20路線を運行するほか、地域の方の足として、ローカル2路線を運行しています。

「お客様が喜ぶことを実践し、日本一のバス会社を目指す」の経営理念のもと、鉄道部門との連携を図りながら、より便利で快適な高速バスネットワークを追求しています。



安全・安心な運行に向けて

職種別及び階層別に安全研修を継続して実施するとともに、様々な場面を想定した異常時対応訓練を実施するなど、全従業員がプロ意識に徹し、お客様に安心してご乗車していただける体制づくりを強化しています。



便利で快適なご利用のために

お客様の利用動向に合わせたダイヤ改正の実施やお得なきっぷの発売により、多くのお客様に便利にご利用いただいています。また、高速バスの一部路線において、キャッシュレス決済端末「stera mobile」を導入するなど、さらなる利便性の向上に取り組んでいます。

真心のこもった荷物輸送の提供

JR四国グループの運輸業の一翼を担う四鉄運輸(株)では、鉄道資材等の調達・輸送を行っています。さらにグループ外の物品の輸送や四国外への輸送の拡大にも取り組んでいます。





四国を代表するホテルグループから全国で戦えるホテルグループへの成長を目指すことで、宿泊を通じた四国との交流人口拡大に貢献します

▶ グループ会社 (株)JR四国ホテルズ、四国開発建設(株)



JRクレメントイン高松・JRホテルクレメント高松

ホテル事業

JR四国ホテルグループは、四国内外に1,471室を展開しており、四国の企業としては最大のホテルグループに成長しました。

総合型ホテルとして「JRホテルクレメント高松」、「JRホテルクレメント徳島」、「JRホテルクレメント宇和島」や、観光地での滞在ニーズに応える「四万十の宿」、「道後やや」を運営しています。

また、宿泊特化型ホテルブランド「JRクレメントイン」の開発・運営に注力しており、2018年に「JRクレメントイン高松」、2020年に「JRクレメントイン高知」、2021年に「JRクレメントイン今治」、2022年に四国外初出店となる「JRクレメントイン姫路」を開業しました。

今後は「JRクレメントイン」ブランドの浸透を軸に、四国内外へのホテル出店に取り組んでいくとともに、地域の皆様に親しまれ、ご利用いただけるホテルグループを目指します。



JRホテルクレメント徳島



JRホテルクレメント宇和島



JRクレメントイン今治



JRクレメントイン姫路



JRクレメントイン高知



四万十の宿



ホテル道後やや

簡易宿所事業



4S STAY阿波池田駅前(外観)



4S STAY阿波池田本町通り(外観)

古民家をリノベーションした簡易宿所「4S STAY(フォースステイ)」を展開しています。徳島県三好市で2018年に「4S STAY 阿波池田駅前」、2020年に「4S STAY 阿波池田本町通り」を開業し、2022年4月には「阿波池田本町通り」のはなれを活用したコワーキングスペースもオープン。四国周遊の拠点として、「暮らすように滞在する」新たな旅のスタイルを提案し、街づくりや地域の活性化を絡めた展開を進めていきます。



地域社会の豊かな発展と生活満足度向上を目指し、
四国の「まちづくり」に積極的に参画します

▶ グループ会社 JR四国ステーション開発㈱、JR四国不動産開発㈱

駅ビル事業

四国内外の交流促進により、地域の活性化に貢献できる駅周辺開発を進めています。

高松駅周辺のサンポート高松エリアでは、高松駅ビル(施設名称「TAKAMATSU ORNE」)が2024年3月のオープンを予定しており、今後「香川県立体育館」の開館や「徳島文理大学高松駅キャンパス」の開校、さらには外資系ホテルの計画等もあります。大きく変化する同エリアにおいて「TAKAMATSU ORNE」は、まちの顔となり人々が集い、賑わいあふれる施設を目指しています。

松山駅周辺開発については、新駅舎の建設や連続立体交差事業・土地区画整理事業が進められるなか、新たにバスタ計画等、駅周辺の計画施設との調和を図りつつ、新たな街づくりが計画されています。

「徳島駅クレメントプラザ」は2023年4月に開業30周年を迎えました。最近では地下1階を駅バル・土産区画に全面改装する等、お客様のニーズを意識したリニューアルに順次取り組んでおります。徳島の玄関口として、また、地域の皆様にとっての生活拠点としてご愛顧いただける魅力ある商業施設を目指しています。



2024年3月のオープンを予定している「TAKAMATSU ORNE」



徳島駅クレメントプラザ

マンション事業

四国主要都市を中心に、2016年度より「J.CREST」ブランドの分譲マンション事業を展開しています。2017年に「J.CREST高松昭和町」(9階建101戸)、2018年に「姫路ザ・レジデンス」(15階建128戸)を関西のマンション事業者と共同で建設・販売し、2023年度は、JR四国グループ単独で「J.CREST県庁前」(14階建39戸)、他のマンション事業者と共同で「ジオ高松常磐町J.CRESTタワー」(18階建98戸+医療施設等)、「プランシエラ道後樋又」(14階建149戸)「プレミスト岡山ザ・レジデンス」(19階建293戸)の計4物件の建設・販売に取り組みました。4物件とも市街地中心部の生活利便性に優れた立地であり、住む人が心から満たされる快適な居住空間を提供します。



ジオ高松常磐町J.CRESTタワー



J.CREST 県庁前

賃貸レジデンス事業



J.リヴェール高知一宮

賃貸住宅ブランド「J.リヴェール」をJR四国独自のブランドとして展開しています。社宅を単身用の賃貸住宅へとリノベーションした「J.リヴェール佐古」(2020年)、「J.リヴェール花園」(I期2021年、II期2023年)のほか、2022年には「J.リヴェール高松南新町」を取得、2023年は、高知一宮社宅跡地に「J.リヴェール高知一宮」を新築し、総戸数114戸を展開しています。

また、JR四国不動産開発㈱でも「オレンジコート」、「ハーバービュー」、リノベーション賃貸住宅などの賃貸住宅事業および物件管理を展開しています。

今後も、自社用地を活用した開発のほか、既存の賃貸住宅の取得等にも力を入れ、JR四国グループ全体での長期間にわたる安定した収益の確保、「J.リヴェール」「オレンジコート」ブランド等の更なる展開に向け積極的に取り組んでいきます。

施設管理事業

JR四国不動産開発㈱では、施設管理業務の一元化によりグループ資産管理に係るコストの低減と、このノウハウを活かした部外資産の管理業務受託に取り組んでいます。

まずは2022年度よりJR四国グループの保有資産である「JRホテルクレメント高松」・「JRホテルクレメント徳島」、「徳島駅クレメントプラザ」等の設備維持管理業務の一元管理を開始するとともに、高松市より庵治観光交流館の指定管理業務を受託する等、JR四国グループ外の資産管理業務についても徐々に取組みを強化しています。



「お客様第一」の視点で、地域の特色を活かした店舗づくりに取り組んでいます

▶ グループ会社 (株)めりけんや、四国キヨスク(株)、JR四国ステーション開発(株)



めりけんや 高松駅前店

飲食事業

駅構内や高架下などにおいて、バラエティー豊かな飲食店舗やベーカリーを展開し、主に駅ご利用のお客様に喜ばれています。

また、うどん店を香川県、首都圏、関西圏で展開しており、香川県のうどん文化を発信するとともに、お客様に心から満足いただけるよう、誇りとこだわりをもって、美味しいうどん造りに精進しています。



リトルマーメイド 坂出駅店



COCOCHIコーヒー(高知駅)

物販事業

駅ナカを中心に、四国地域ならではのお土産品や特産品を取り扱う「銘品館」や飲み物やお菓子などのデイリー商品等を数多く取り扱う「セブン-イレブン Kiosk」等を展開し、駅をご利用のお客様や駅周辺に集う皆様の多様なニーズにお応えしています。



高知銘品館



セブン-イレブンKiosk 高松駅前店

建設セグメント



インフラ設備の新設・改良や維持管理を通じた長年の実績と培われた堅実な技術力を活かし、安全・安心輸送を支えています

▶ グループ会社 四国開発建設(株)、四国電設工業(株)、本四塗装工業(株)

安全運行を支える

線路の保守・修繕や信号をはじめとした電気設備工事、瀬戸大橋の塗装など、四国の鉄道の安全・安定輸送を守っています。



鉄道以外への展開を目指して

鉄道事業で培った信用と技術力を活かし、鉄道以外の分野にも積極的に展開します。



市立高松第一高等学校体育館照明等工事



各社のもつ技術力やノウハウを活かし、様々な分野で事業を展開しています

▶ **グループ会社** (株)ジェイアール四国企画、四国鉄道機械(株)、(株)ジェイアール四国コミュニケーションウェア、(株)ジェイアール四国メンテナンス、JR四国情報システム(株)、東京セフティ(株)、(株)駅レンタカー四国

多彩な広告媒体でお客様に情報を



高松駅円柱ピロティ広告

駅や車内に掲出するポスターや、デジタルサイネージ、車両ラッピング広告など様々な広告媒体を販売しています。(株)ジェイアール四国企画はJR四国グループのハウスエージェンシーとして、Webサイト、イベント等の企画、制作、運営を行うなど、幅広い業種の広告宣伝活動をサポートし広告を通じて、企業と人の架け橋となり、四国の活性化に取り組んでいます。

教育におけるICT活用で社会貢献を



(株)ジェイアール四国コミュニケーションウェアでは、教育におけるICT活用でご利用いただけるソフトウェアを開発・販売しています。

子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現する協働学習支援ツール「コラボノートEX」や学校、家庭、地域の連携をはかり安全・安心な学校づくり、まちづくりの実現をめざすホームページ作成ツール「ふれあい通信TE」など、教育で社会貢献できる企業を目指しています。

車両と機械の分野で安全安定輸送をサポート



西九州新幹線大村車両基地 車両洗浄装置

四国鉄道機械(株)の機械事業部では、JR四国設備機械の保全を担うとともに、車両洗浄装置など各種洗浄装置や検修設備機械の設計・製作を行い、全国のJRグループや公民鉄道への納入・施工実績を重ねています。

車両事業部では、JR四国車両の定期修繕工事や各種改造工事を実施。ものがたり列車につづいて8000系特急電車の大規模リニューアルに取り組んでいます。

お客様により安全で快適な空間を提供



(株)ジェイアール四国メンテナンスでは、鉄道車両の検査、修繕、入換作業をはじめ、JR四国の駅舎・車両の清掃整備や、ホテルなどの清掃、ベッドメイクなど幅広い業務を手がけています。「より安全で快適な空間をお届けすること」をテーマに、地域の方々の暮らしや産業に貢献し続けることを目指していきます。

グループ内外のDX推進をサポート



JR四国情報システム(株)は、積極的なIT技術の活用により、「しこくスマートえきちゃん」をはじめ、鉄道事業を中心としたお客様の利便性向上やJR四国グループの業務効率化に取り組んでいます。

近年ではグループ外からのシステム開発受注や、地元ベンチャー企業との協業など活動を広げて、地域に貢献できる企業を目指しています。

より便利で快適な旅を提供

駅レンタカー四国では、鉄道ご利用のお客様に便利な四国内の18箇所の主要駅において、レンタカー事業を行っています。鉄道とセットとなった商品を販売するなど、お客様により便利で快適な旅をお届けしています。

社会の秩序と安心・安全の確保を目指して



東京セフティ(株)は、2023年3月よりJR四国グループの一員となりました。現在は、香川県・愛媛県・岡山県に拠点を置き、施設警備・交通誘導警備・イベント警備を中心とした警備保障業務を行っています。

積み重ねてきた警備のノウハウと実績を活かし、地域に密着したサービスを提供します。



新しい取組み

「新時代」創造プロジェクト 鉄道だけじゃないJR四国

JR四国(事業開発本部)は、多様化する社会情勢の中で新たな収益の柱となる事業の立ち上げを目標に、オープンイノベーションプラットフォームを活用した新規事業のアイデア募集を実施しました。選考されたアイデアの事業化に向けて取り組んでいます。



JR四国スタッフ

Only One商品開発

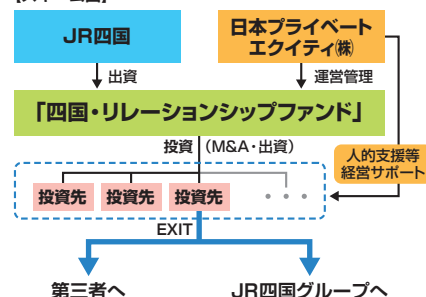
JR四国グループでは、グループの持つブランド価値を武器とする商品ブランドの構築を目指し、開発した商品の販売に向けて取り組んでいます。食材の選定から配合、価格設定、販売方法、ネーミングなど一連の企画を自社で検討し、お客様に選んでいただける商品の開発を目指します。



「四国・リレーションシップファンド」の設立

「四国を『共創』するという想いの下、業界や業態、地域を超えて四国の『内』と『外』を『Relation(連携)』の輪で囲み、循環を促すことで四国を元気にすること」をコンセプトとした地域活性化ファンドを2023年10月に設立しました。ファンドの持つノウハウ・専門性を活かすことで、投資先企業の成長を支援し、共に四国の経済・文化の発展に寄与することを目指しています。

【スキーム図】



地域連携への取り組み

JR四国グループは、そのネットワークと総合力を活かし、地元自治体や関係団体と連携し、まちづくりや観光振興など、地域の活性化・発展につながるさまざまな取り組みを進めています。

「四国家のお宝」連携の取り組み



「四国家のお宝」パンフレット

地元自治体と構成した「四国家のお宝」連携（ネットワーク）のもと、四国に存在する地域資源、文化資源を掘り起こし、地域と協働して付加価値付けされた観光素材、文化素材に磨き上げ、観光による地域活性化を目指す取り組みを行っています。

2021年4月より、四国地区内の信用金庫を会員とする四国地区信用金庫協会と、相互に連携・協力し観光による地域活性化を図り、地域経済の持続的な発展に寄与することを目的とした連携協定を締結しました。「四国家のお宝」を活用し、事業への企画・協力、信用金庫の顧客への地元旅行の提案などを実施しています。



佐川町「バイカオウレン」ツアー



内子町「石畳地区」ツアー

今後とも、地域と連携・協働を推進し、新たな観光需要の創出を図ります。

〔「四国家のお宝連携」(ネットワーク)の地域(2023年10月時点)〕

徳島県:美馬市、阿南市、三好市

香川県:丸亀市、善通寺市、さぬき市、観音寺市、東かがわ市

愛媛県:四国中央市、新居浜市、西条市、伊予市、大洲市、西予市、宇和島市、内子町、松野町

高知県:佐川町、四万十町

四国に関わる産官学金との連携・協働による地域創生の展開

【四国家サポーターズクラブ】

全国に先駆けて人口減少や少子高齢化が進み、地域経済の縮小や衰退という課題に直面する四国において、地域の活性化に向け取り組む自発的な有志の集まりとして「四国家サポーターズクラブ」を、2021年3月に設立しました。

当初は24社で発足し、2023年10月時点で110社が参加しています。日本を代表する様な企業から産声を上げたばかりの四国の地域ベンチャーまで、業界や規模を問わず集い、それぞれの強みや得意を持ち寄った活動に取り組んでいます。



四国家サポーターズクラブ総会



一日一斉おもてなし遍路への参加

【四国4国立大学との連携】

徳島大学・香川大学・愛媛大学・高知大学と連携・協力し、地域振興や人材の育成に取り組んでいます。学生の皆さまが、四国への来訪者を増やすための旅行を若い感性と視点で企画し、最終審査会で選ばれた企画を、当社が「四国家のお宝」シリーズとして市場に展開していきます。



「地域観光チャレンジ」最終審査会2023



高知大学「五感で味わう牧野富太郎」



香川大学「移住者が集まる里山 五名の魅力」

「NPO法人四国NETT」を通じた地域貢献活動

四国の豊かな自然や人々とのふれあいを通じた地域貢献活動や文化活動、スポーツ振興に取り組む「NPO法人四国NETT」を支援しています。

風光明媚な瀬戸内海の島々での環境保全活動(植樹、植栽等)や芸術・文化活動・子供たちの健全育成への支援を通じて、地域の活性化に取り組んでいます。



「四国家のお宝キッズ」への支援



女木島の草刈

地域の文化・音楽・スポーツの振興をサポート

「瀬戸内国際芸術祭」などの地域の文化・芸術活動、「高松国際ピアノコンクール」など地域の音楽活動による地域振興の取り組みに協力・応援しています。

また、プロ野球「四国アイランドリーグplus」をはじめ、サッカー Jリーグ「徳島ヴォルティス」「愛媛FC」「カマタマーレ讃岐」、バスケットボール B.LEAGUE「香川ファイブアローズ」など地域のプロスポーツを応援しています。



「カマタマーレ讃岐」応援ラッピング(丸亀駅)

環境保全への取り組み

サステナビリティ推進委員会の設置

JR四国では、2004年に「エコロジー推進委員会」を設置し、環境活動の基本理念と行動指針を定め、環境保全に取り組んでまいりました。近年、地球規模で環境・社会問題が深刻化する中、持続可能な社会の実現を目指すことが当社の社会的責任であるという認識のもと、2022年度より名称を「サステナビリティ推進委員会」に改め、環境に配慮した事業活動の推進及び2050年カーボンニュートラルに向けた施策の展開を中心に、サステナブルな経済・社会の実現を目指した取り組みを進めていきます。



基本理念

JR四国グループは、環境保全に積極的な姿勢で取り組み、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

- 1 エネルギー消費の効率化、CO₂排出量の削減を図り、環境に配慮した技術開発や創意工夫に努めます。
- 2 廃棄物の削減とリサイクルの推進に努め、限られた資源を適正かつ有効に活用し、持続可能な社会の実現を目指します。
- 3 環境に優しい鉄道を安心して快適にご利用いただくため、安全安定輸送を第一に、より良いサービスの提供を目指します。

省エネルギー・CO₂排出量削減への取り組み

JR四国では、省エネルギー化やCO₂排出量削減を図るために、従来より軽量化されたステンレス製車体やVVVFインバータ制御システムを搭載した電車車両の導入、老朽化した電車車両に炭素繊維強化プラスチック(CFRP)製の軽量台車を採用したリニューアル工事を実施するなど、環境に優しい鉄道車両(8600系特急電車や7200系電車など)の導入を進めています。

オフィス等では省エネ型の照明機器や変圧器、冷暖房装置等を導入し、エネルギーの効率化を図っています。

また信号機や照明器具の電球を順次発光ダイオード(LED)に取り替えるなど、省電力化に努めています。

2013年10月には、再生可能エネルギー固定価格買取制度による売電を開始しました。四国内3箇所で太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーの利用に取り組んでいます。



8600系特急電車



7200系電車

JR四国 カーボンニュートラル行動計画目標

2030年度CO₂排出量を2013年度比30%削減する。

(JR四国単体:鉄道事業)

日本経団連が推進する「カーボンニュートラル行動計画」に参画し、2030年度に向けた自主目標としてCO₂排出量30%削減(2013年度比)を目指していきます。

当社グループでは、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、省エネの推進や新たな技術の導入など、JR四国グループ一体となってCO₂排出量の削減に取り組むと共に、サステナブルな経済・社会の実現に貢献していきます。



ホーム天井照明のLED化(高松駅)



太陽光パネル(宇多津駅)

鉄道利用促進への取り組み

(鉄道の環境優位性のPR強化に向けたコンセプトの策定)

カーボンニュートラルの実現に向けて、相対的に低炭素な輸送モードである鉄道のさらなる利活用(モーダルシフト)を目指すとともに、鉄道の環境優位性に対する社会的な理解を促進するため、JR7社と全国72社の民鉄事業者が加盟する(一社)日本民営鉄道協会において共通ロゴマークとスローガンを定めています。

今後、鉄道業界が一体となって、環境優位性のPRを強化しご利用の促進を図っていきます。

《デザインイメージ》

- ・カーボン“ゼロ”をめざすことや列車の車窓をモチーフに意匠化
- ・クリーンな大気や自然を想起させるターコイズグリーンを基本色とし、各社コーポレートカラーでも展開予定
- ・スローガンは、サステナブルな未来に向けて、鉄道のご利用を前向きに社会やお客様に呼びかけるイメージ



Switch!
SUSTAINABLE
TRAIN



Switch!
SUSTAINABLE
TRAIN



経営自立に向けた取り組み

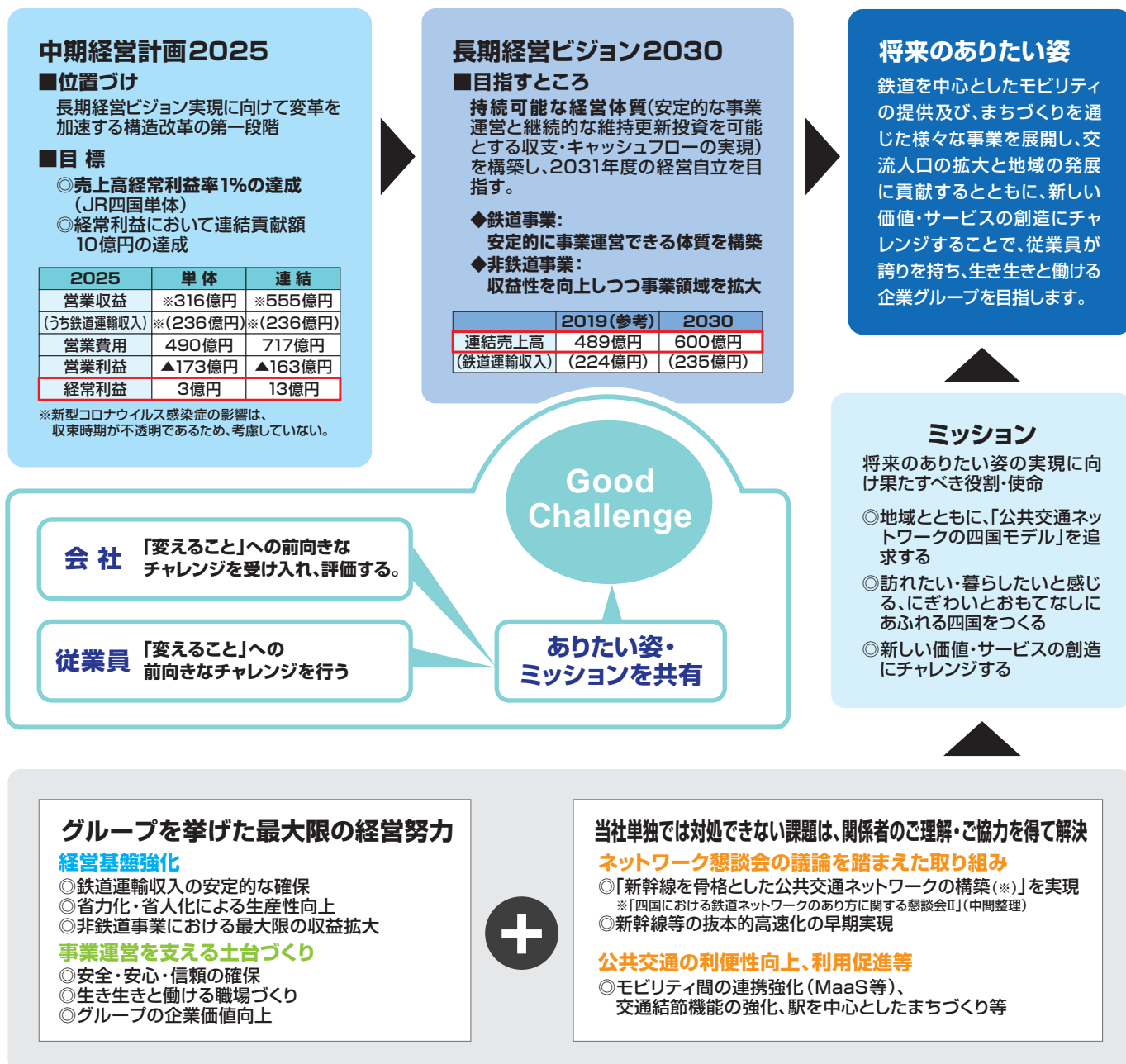
JR四国グループは2021年度を始期とする「長期経営ビジョン2030」及び「中期経営計画2025」を策定し、2021年3月31日に発表しました。当社グループが進むべき道筋として、将来のありたい姿を掲げ、その実現に向けた過程として「長期経営ビジョン2030」及び「中期経営計画2025」を位置づけています。

「長期経営ビジョン2030」では、持続可能な経営体質(安定的な事業運営と継続的な維持更新投資を可能とする収支・キャッシュフローの実現)を構築し、2031年度の経営自立を果たすことを「目指すところ」としています。これの実現に向けては、グループを挙げた最大限の経営努力を推し進めるとともに、当社単独では対処できない課題について、関係者のご理解・ご協力を得て解決して参ります。

また、副題には「Good Challenge」を掲げ、これまでの組織風土にとらわれず、「変えること」への前向きなチャレンジが評価される文化をつくり、会社・従業員相互の信頼関係を築くとともに、コミュニケーションを活性化させ、「Good Challenge」を合言葉に一体となって取り組み、変革を加速していきます。

「中期経営計画2025」は、「長期経営ビジョン2030」実現に向けた構造改革第一段階と位置づけ、2025年度に会社発足時の収支見通し及び2011年度に策定した経営自立計画の目標である「売上高経常利益率1%の達成(JR四国単体)」、また、経常利益において「連結貢献額10億円」の達成を目指しています。

JR四国グループ 長期経営ビジョン・中期経営計画の概要



「中期経営計画2025」の主要施策

事業運営を支える土台づくり

安全・安心・信頼の確保	<ul style="list-style-type: none"> ◎中期安全推進計画の着実な推進等による安全・安定輸送の追求 ◎サービスアップ中期計画の着実な推進等によるお客さま満足の上向 ◎コーポレートガバナンス強化
生き生きと働ける職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◎デジタル化によるワークスタイル変革等の働きがい創出
グループの企業価値向上	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループガバナンスの強化、事業再編の実施、セグメント管理への移行による変革の推進

経営基盤強化

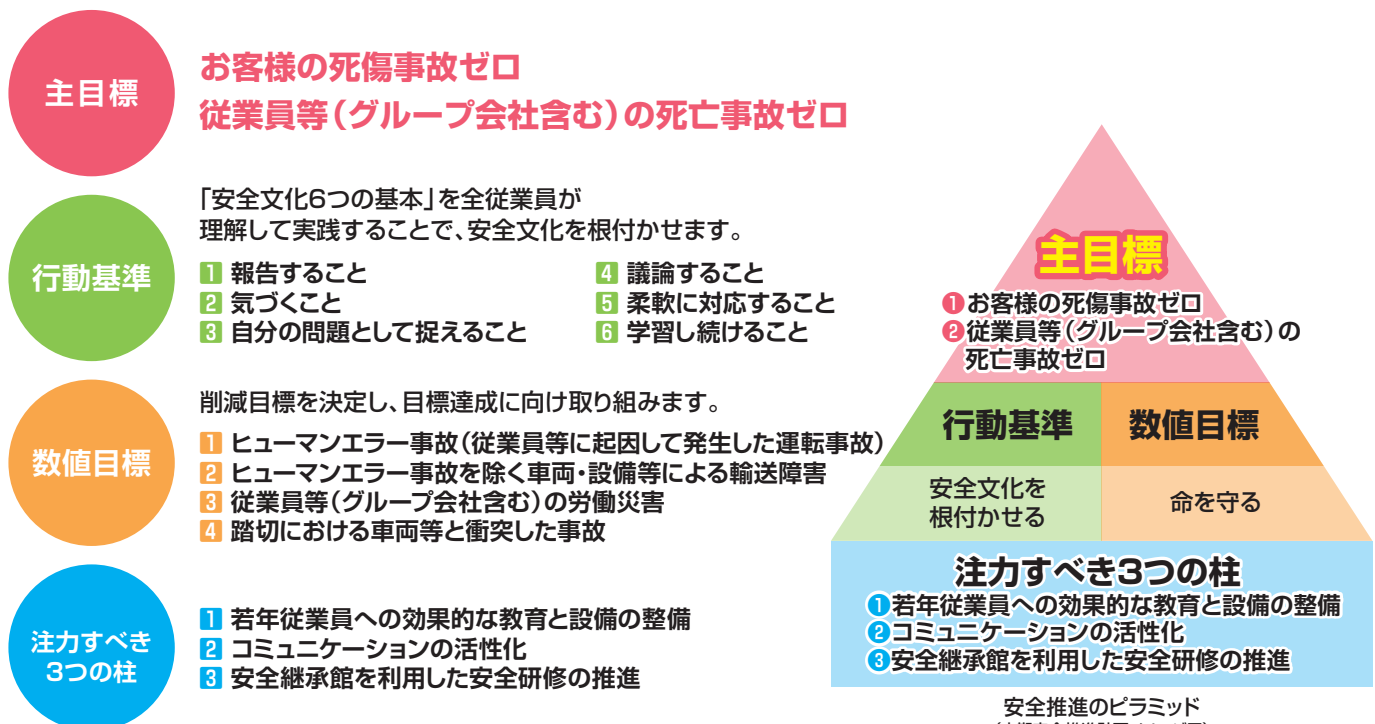
鉄道運輸収入の 安定的な確保	<ul style="list-style-type: none"> ◎お客さまが利用しやすいダイヤ設定等による都市圏の利便性向上 ◎スマホアプリ・QRコード等を活用したデジタル化、キャッシュレス決済サービスの導入 ◎新たな「伊予灘ものがたり」の運行等による観光列車の維持・充実 ◎地域と連携した観光需要創出・誘客促進 ◎運賃改定や商品の戦略的価格設定等による収入拡大
省力化・省人化による 生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ◎「みどりの券売機プラス」の設置拡大、Web販売強化等による乗車券類等販売体制の見直し ◎ワンマン運転の拡大等による列車運行の効率化 ◎自動化機械導入による多度津工場の近代化 ◎設備検査用車両、車両・設備のモニタリングシステム導入等による検査・修繕の効率化
非鉄道事業における 最大限の収益拡大	<ul style="list-style-type: none"> ◎JRクレメントイン今治の開業、宿泊特化型ホテルの出店候補地の選定 ◎街の「顔」となり、人が集い、にぎわいあふれる拠点を旨とした高松駅北側「駅ビル」開発、松山駅高架下開発及び松山駅周辺再開発の推進 ◎高松市、岡山市、松山市における分譲マンション開発の推進 ◎強みを活かし得る分野や新しい領域における市場機会を捉えたM&Aや資本提携等の検討

地域等関係者との連携・協力

ネットワーク懇談会の 議論を踏まえた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ◎懇談会Ⅱの中間整理、県別会議において取りまとめられた利便性向上策・利用促進策を踏まえた、地域の関係者との連携・協力した、取り組み・議論の推進 ◎地域とともに基礎調査の結果を踏まえた新幹線等による抜本的な高速化の実現に向けた検討 ◎新幹線等による抜本的な高速化の必要性について、より一層の理解を得るための継続的取り組み
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◎MaaSの考え方を踏まえたモビリティ間の利便性向上・連携強化 ◎松山駅周辺整備等まちづくりとの連携 ◎「四国家サポーターズクラブ」等地域の企業・団体等との連携による地域活性化

中期安全推進計画

2020年度から5年を期限とした、新しい「中期安全推進計画」を策定しました。鉄道事業者にとって、安全の確保は事業運営の根幹であると同時に輸送業務の最大の使命であり、全てに優先する最重要課題です。この「中期安全推進計画」で掲げている「行動基準」及び「数値目標」を確実に実践・達成することで、お客様の死傷事故を絶対に起こさないこと並びに従業員等の死亡事故も絶対に防止することを「主目標」として、目標達成に向け全力で取り組むこととします。



会社概要

会社概要

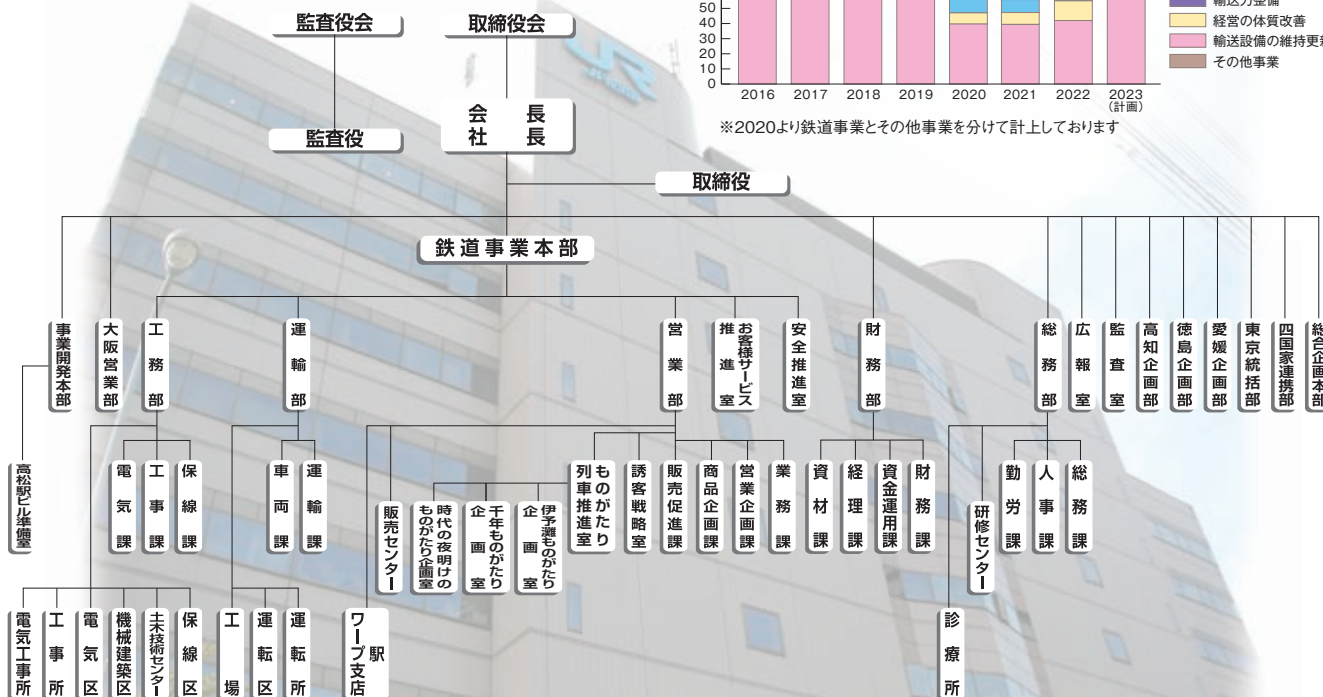
社名／四国旅客鉄道株式会社
 設立／1987年4月1日
 資本金／35億円
 社員数／2,025人
 事業内容／旅客鉄道事業
 旅行業
 その他関連事業

役員

取締役会長……………半井 真司
 代表取締役社長……………西牧 世博
 代表取締役専務(総合企画本部長)……………四之宮和幸
 専務取締役(鉄道事業本部長)……………長戸 正二
 常務取締役……………加藤 隆司
 常務取締役(鉄道事業本部副本部長
 兼鉄道事業本部営業部長)……………藤本 聡
 常務取締役(事業開発本部長)……………平田 成正
 取締役(財務部長)……………岡田 幸士
 取締役(総務部長)……………高島 雅彦
 取締役(非常勤)……………佐伯 勇人
 取締役(非常勤)……………古谷 純代
 常勤監査役……………森下 聖史
 監査役(非常勤)……………大塚 岩男
 監査役(非常勤)……………山元 文明
 監査役(非常勤)……………真鍋忠美子
 相談役……………泉 雅文
 顧問……………松田 清宏

※2023年6月23日現在

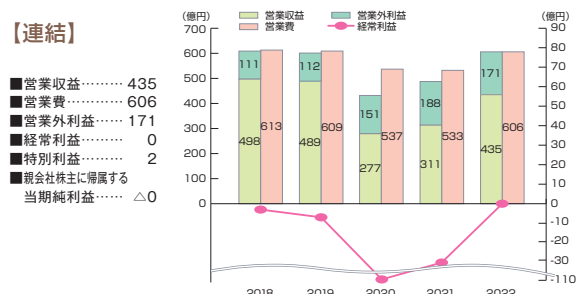
組織図



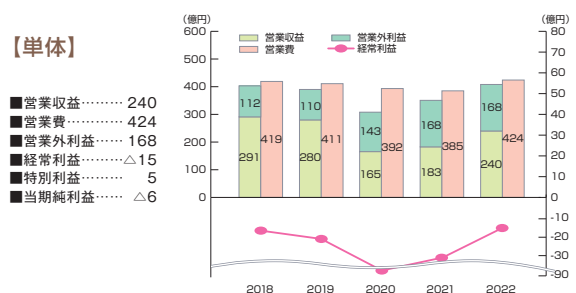
2022年度 決算

※2020年度から新型コロナウイルスの影響により、営業収益が大きく減少している。

【連結】

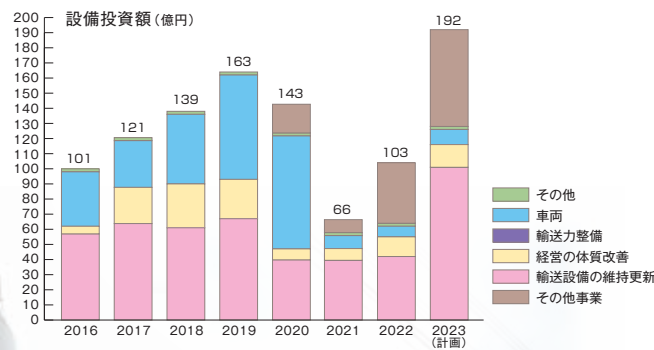


【単体】



設備投資額の推移

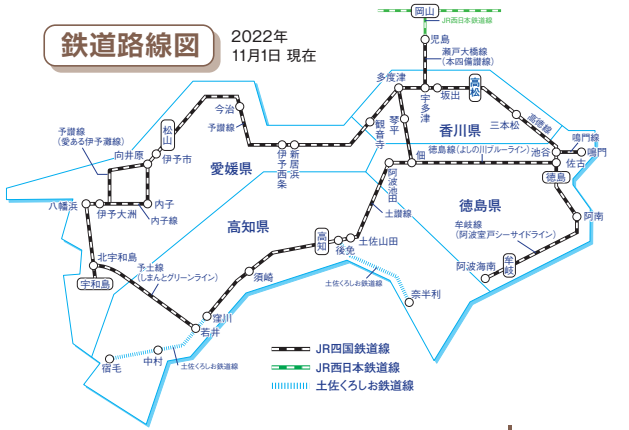
年 度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (計画)
輸送設備の維持更新	57	64	61	67	40	39	42	101
経営の体質改善	5	24	29	26	7	7	13	15
輸送力整備	0	0	0	0	0	0	0	0
車両	36	31	46	69	77	9	7	10
その他	2	2	2	2	2	2	2	2
小計(鉄道計)	101	121	139	163	126	56	63	128
その他事業	-	-	-	-	18	9	40	64
合計	101	121	139	163	143	66	103	192



※2020より鉄道事業とその他事業を分けて計上しております

鉄道路線図

2022年
11月1日 現在



旅客鉄道事業

- 営業キロ……………853.7km
- 駅数……………259駅(臨時駅2駅含む)
- 車両数 機関車……………1両
- 電車……………160両
- 気動車……………246両
- 貨車……………5両
- 1日あたり旅客列車運転本数……………942本

2022年11月1日 現在

線名	区間	営業キロ	電化キロ	複線キロ
本四備讃線	児島～宇多津	18.1	18.1	18.1
	高松～宇和島	297.6	206.0	32.7
予讃線	向井原～内子	23.5		
	伊予大洲～新谷	5.9		
内子線	新谷～内子	5.3		
土讃線	多度津～窪川	198.7	11.3	
高德線	高松～徳島	74.5		
予土線	若井～北宇和島	76.3		
鳴門線	池谷～鳴門	8.5		
徳島線	佐古～佃	67.5		
牟岐線	徳島～阿波海南	77.8		
合計9線区		853.7	235.4	50.8

JR四国のあゆみ

1987年(昭和62年)

- 1 四国旅客鉄道株式会社発足
- 1 国内旅行業の営業開始
- 10 2 ダイヤ改正実施(予讃線・坂本～多度津間の電化開業に伴い、高松～観音寺・琴平間直通電車運転)
- 10 2 宇多津駅新設開業
- 10 2 9 経営理念・行動指針制定
- 11 3 0 岡山～高松間の愛称線名を「瀬戸大橋線」に決定
- 12 11 岡山直通の特急列車の名称を「しおかぜ」「南風」「うずしお」に決定

1988年(昭和63年)

- 3 1 丸亀駅新設開業
- 4 1 中村線・窪川～中村間を土佐くろしお鉄道(株)に移管
- 4 1 本四備讃線(児島～宇多津間)開業(宇高連絡船78年の歴史に幕)
- 4 1 0 ダイヤ改正実施(本州～四国間に直通列車運転、ワンマン列車運転開始)

1989年(平成元年)

- 2 26 主催旅行ブランド名を「ワープ」に決定
- 1 1 1 ダイヤ改正実施(土讃線に制御列車子式2000系特急車2両導入)
- 4 1 消費税率に伴う運賃改定(3%)
- 5 1 9 SL「どきん号」運転(土讃線・多度津～琴平間)
- 7 2 2 ダイヤ改正実施(特急「しおかぜ」「南風」増発)
- 11 2 5 SL「しまんと号」運転(予土線・土佐大正～宇和島間)

1990年(平成2年)

- 3 1 0 ダイヤ改正実施(徳島地区に1000系気動車導入)
- 10 3 0 今治駅新設開業
- 11 3 1 牟岐線・二軒屋～地蔵橋間に「文化の森駅」開業
- 11 2 1 ダイヤ改正実施(伊予北条～伊予市間電化開業、7000系電車導入)

1991年(平成3年)

- 3 1 6 ダイヤ改正実施(快速「マリンライナー」増発)
- 3 1 6 予讃線・浅海～伊予北条間に「大浦駅」開業
- 11 2 1 全線自動信号化(CTC化率100%達成)

1992年(平成4年)

- 3 1 4 ダイヤ改正実施(高知地区に1000系気動車導入)
- 3 1 6 阿波海岸鉄道(株)(海部～甲浦間)開業
- 4 1 1 列車の冷房化率100%達成、客車列車廃止
- 7 2 3 ダイヤ改正実施(予讃線・観音寺～新居浜間、今治～伊予北条間電化開業)
- 9 1 5 徳島駅新設開業
- 9 1 9 予讃線の臨時特急列車として8000系特急車2両導入

1993年(平成5年)

- 3 1 8 ダイヤ改正実施(予讃線・新居浜～今治間電化開業により高松～伊予市間全線電化開業)
- 7 2 ホテルクレメント徳島オープン
- 7 2 0 特急列車用定期券「快てんき」発売開始
- 7 2 7 佐古駅新設開業
- 9 2 1 予讃線・高松～多度津間全線の複線化完成
- 10 1 ダイヤ改正実施(土讃線の特急列車を全て2000系車両に置換)

1994年(平成6年)

- 6 1 25kmまでの特急・急行料金を新設
- 12 3 ダイヤ改正実施(特急「しおかぜ」「いしづち」増発)
- 12 3 予讃線・高瀬大坊駅を「みの駅」に改称

1995年(平成7年)

- 1 1 7 阪神・淡路大震災
- 4 5 ダイヤ改正実施(特急「宇和海」増発)
- 4 5 フリーダイヤルによる「列車運転状況案内サービス」開始

1996年(平成8年)

- 1 1 0 運賃改定実施
- 3 1 6 ダイヤ改正実施(徳島～高知間直通特急「剣山」運転)
- 3 1 6 遠隔一斉放送設備を予讃線・松山～宇和島間で導入
- 4 2 6 6000系電車営業運転開始
- 11 2 4 「讃岐丸」の最終航海記念式

1997年(平成9年)

- 2 2 6 坂出駅新設開業
- 3 2 2 ダイヤ改正実施(特急「しおかぜ」増発)
- 4 1 消費税率引き上げに伴う運賃改定(5%)
- 5 1 JR四国ホームページ開設
- 5 2 0 新総合指令所(高松市)において列車運行管理システムの使用開始
- 6 5 新本社ビル完成
- 7 2 7 予土線の愛称「しまんとグリーンライン」使用開始
- 11 1 土佐くろしお鉄道(株)宿毛線開業(中村～宿毛間)
- 11 1 8 瀬戸大橋線の利用者1億人達成
- 12 6 SL「牛鬼号」運転(予土線・土佐大正～宇和島間)

1998年(平成10年)

- 3 1 4 ダイヤ改正実施(高德線に新型2000系特急車2両導入)
- 3 1 4 高德線・志度～遠田間に「オレンジタンク」開業
- 4 2 宇和島駅新設開業
- 4 5 明石海峡大橋開通
- 4 1 0 瀬戸大橋線開業10周年記念「海走SL瀬戸大橋号」運転(瀬戸大橋線・茶屋町～多度津間)
- 4 1 7 志度駅新設開業
- 6 1 0 ホテルクレメント宇和島オープン
- 7 1 1 ダイヤ改正実施(寝台特急「サンライズ瀬戸」運転開始)
- 9 2 4 集中豪雨のため、土讃線(繁盛～土佐山田、土佐山田～高知)が一部不通に
- 10 3 ダイヤ改正実施(特急列車増発)

1999年(平成11年)

- 3 1 3 ダイヤ改正実施(特急「うずしお」スピードアップ)
- 3 1 3 急行「よしの川」の廃止により、急行列車全廃
- 9 1 新型ジョイントレイン「アイランドエクスプレス四国II」導入

2000年(平成12年)

- 7 1 徳島線の愛称「よしの川ブルーライン」使用開始
- 10 1 4 「アンパンマン列車」運転開始(土讃線・岡山～高知・中村間)
- 11 2 1 SL「坂の上の雲号」「花神号」運転(予讃線・松山～宇和島間)

2001年(平成13年)

- 3 3 ダイヤ改正実施(特急「南風」増発「アンパンマン列車2号」登場)
- 4 2 5 後免駅新設開業
- 5 1 3 高松駅新設開業
- 5 1 4 全日本ホテルクレメント高松オープン
- 10 1 ダイヤ改正実施(予讃線に「アンパンマン列車」登場)
- 11 2 3 SL「土佐龍馬号」運転(土讃線・土佐山田～高知間)

2002年(平成14年)

- 3 2 3 ダイヤ改正実施(高松～観音寺・琴平間に快速「サンポート」運転開始)
- 3 2 3 高知運輸所(布師田基地)使用開始
- 5 1 7 SL「阿波四国三郎号」運転(徳島線・徳島～阿波川島間)
- 7 1 牟岐線と阿波海岸鉄道(株)の愛称「阿波室戸シーサイドライン」使用開始
- 7 1 土佐くろしお鉄道(株)こめん・なはり線(後免～奈半利間)開業
- 7 1 3 予讃線・市野駅の愛称「野駅(の・ぼー)駅」使用開始
- 10 6 「ゆうゆうアンパンマンカー」(高徳・徳島線)運転開始

2003年(平成15年)

- 3 2 1 瀬戸大橋線開業15周年を記念して「瀬戸大橋トロッコ号」運転(岡山～琴平間)
- 4 8 「フリーゲージトレイン」が走行試験
- 10 1 ダイヤ改正実施(特急「南風」増発、新型「マリンライナー」車両を導入)
- 11 1 9 阿南駅新設開業

2004年(平成16年)

- 4 1 自動車事業部門の営業譲渡により、ジェイアール四国バスが営業開始
- 8 1 8 台風15号の集中豪雨により、予讃線・関川～多喜浜間が一部不通に
- 9 2 9 台風21号の集中豪雨により、予讃線・関川～多喜浜間が一部不通に
- 10 1 3 8000系リニューアル車両が営業運転開始

2005年(平成17年)

- 3 1 ダイヤ改正(通勤・通学時間帯を中心に特急「宇和海」「剣山」など増発)
- 8 1 「安全網」の改正
- 10 1 予讃線のアンパンマン列車に「アンパンマンシート」登場
- 10 2 8 SL急行「讃岐路義経号」運転(予讃線・高松～多度津間)

2006年(平成18年)

- 3 1 駅番号表示(駅ナンバリング)をJRグループで初めて導入
- 3 1 8 ダイヤ改正実施(「ミッドナイトEXP松山」を新居浜まで延長運転)
- 5 2 5 1500系気動車営業運転開始
- 10 6 「アンパンマントロッコ列車」登場
- 11 2 3 SL急行「土佐二十四万石博一豊&千代号」運転(土讃線・高知～須崎間)

2007年(平成19年)

- 3 1 制服を一新
- 9 5 「安全報告書」を作成・公表

2008年(平成20年)

- 2 2 6 高知駅新設開業、入明駅、円行寺口駅新設開業
- 2 2 6 高知駅にJR四国初の自動改札機を導入
- 3 1 5 ダイヤ改正実施(岡山～徳島駅間に特急列車「ホームエクスプレス阿南」を新設)
- 3 1 5 土讃線・波川～日下間に「小村神社前駅」開業
- 3 1 5 高知駅に四国初の指定席券売機を導入
- 3 1 5 電話案内センター開設
- 6 1 高松駅に自動改札機を導入
- 10 5 土讃線のアンパンマン列車に「アンパンマンシート」登場
- 10 1 0 「エクスプレス予約」の取次機能を高松駅に設置
- 12 2 7 アンパンマン列車「アンパンマン」の車で中身放送開始

2009年(平成21年)

- 3 1 早期地震警報システムの導入
- 3 1 4 ダイヤ改正実施(気動車の一部でアードリングストップを実施)
- 10 1 インターネット予約サービス(e5489plus)開始
- 10 3 しまなみサイクルング月間にあわせ、松山～波止浜間で「サイクルトレインしまなみ号」を運転
- 10 2 2 瀬戸大橋線の利用者、2億人達成

2010年(平成22年)

- 3 1 3 ダイヤ改正実施(牟岐線全線で1500・1200系気動車の運転開始)

2011年(平成23年)

- 3 1 1 東日本大震災
- 3 1 2 ダイヤ改正実施(特急列車の新設、鳴門線で1500・1200系気動車、土讃線全線で1000系気動車の運転を開始)
- 3 1 2 四国内の特急列車が全車禁煙化(喫煙ルームの廃止)
- 7 9 予土線に「海洋堂ホビートレイン」運転開始

2012年(平成24年)

- 3 1 「アンパンマントロッコ列車」を東日本の被災地エリアで運転(～7/13)
- 3 1 7 高松駅及び坂出駅でICカード乗車券「ICOCA」のサービスを開始
- 4 1 「全日本ホテルクレメント高松」が「JRホテルクレメント高松」としてリブランドオープン
- 4 1 「ALL SHIKOKU Rail Pass」の発売開始

2013年(平成25年)

- 3 2 3 ICカードの全国共通運用開始
- 4 1 列車のドアの半自動扱いを適年化
- 8 3 1 元祖トロッコ列車「清流しまんと号」運転終了
- 10 5 予土線で「しまんとトロッコ」運転開始
- 10 1 3 台湾鉄道管理局松山駅とJR四国松山駅の友好駅協定調印

2014年(平成26年)

- 3 1 予讃線高松駅～多度津駅および瀬戸大橋線児島駅～宇多津駅間でICカード乗車券「ICOCA」の利用開始
- 3 1 5 ダイヤ改正実施(予土線に「鉄道ホビートレイン」運転開始)
- 4 1 消費税率引き上げに伴う運賃改定(8%)
- 6 2 3 新型特急電車「8600系」運転開始
- 7 2 6 観光列車「伊予灘ものがたり」運転開始
- 8 6 宇多津駅構内に「セブンイレブン」Kiosk 宇多津駅店オープン
- 9 5 瀬戸内海国立公園指定80周年を記念して、期間限定で寝台特急「サンライズ瀬戸」(下りのみ)高松～琴平間延長運転を実施

2015年(平成27年)

- 3 7 観光列車「伊予灘ものがたり」乗車数累計1万人達成
- 3 2 1 土讃線琴平～大谷間に「絶景土讃線秘境トロッコ」を運転

2016年(平成28年)

- 3 2 6 ダイヤ改正実施(8000系予讃線アンパンマン列車、8600系しおかぜ運行開始)
- 5 1 1 JR四国イメージキャラクター「すまいるえきちゃん、れっちゃん」デビュー
- 7 2 「海洋堂ホビートレイン」かっぱようよう号リニューアルデビュー
- 11 2 7 トロッコ列車「絶景土讃線秘境トロッコ」が運転終了

2017年(平成29年)

- 3 1 7 高知駅に「アンパンマン列車ひろば」を設置
- 4 1 観光列車「四国まんなか千年ものがたり」運転開始
- 4 1 四国デザイン・セッションキャンペーンを開催
- 9 1 8 台風18号により、予讃線・海岸駅～詫間駅間の護岸が損傷し一部不通に
- 9 1 8 観光列車「四国まんなか千年ものがたり」乗車数累計1万人達成
- 9 2 3 土讃線トロッコ列車「志国高知 幕末新号」運転開始
- 10 1 4 「ゆうゆうアンパンマンカー」リニューアルデビュー
- 12 2 2 新型特急気動車「2600系」運転開始
- 12 2 2 分譲マンション「J.CREST高松昭和町」完成

2018年(平成30年)

- 3 1 7 特急気動車2000系試作車・愛称TSEの定期運行終了
- 4 1 0 瀬戸大橋線開業30周年記念式典を開催
- 4 1 5 簡易宿所「4S STAY京都九条」開業
- 7 平成30年7月豪雨災害
- 8 9 予讃線・本山駅～観音寺駅間の運転を再開(平成30年7月豪雨災害の影響)
- 8 1 0 予讃線(海回り)・伊予市駅～伊予大洲駅間と予土線・宇和島駅～窪川駅間の運転を再開(平成30年7月豪雨災害の影響)
- 9 1 3 予讃線・卯之町駅～宇和島駅間の運転を再開(平成30年7月豪雨災害の影響)
- 10 1 1 宿泊特化型ホテル「JRCレメントイン高松」開業
- 11 1 7 簡易宿所「4S STAY 阿波池田駅前」開業

2019年(令和元年)

- 2 1 宿泊特化型ホテル「道後や」運営を開始
- 3 1 6 ダイヤ改正実施(牟岐線に「パターnda」を導入)
- 8 6 新型特急気動車「2700系」運転開始

2020年(令和2年)

- 3 1 4 ダイヤ改正を実施(予讃線・北伊予～伊予横田間に「南伊予駅」開業)
- 3 1 4 ICOCAエリア拡大(四国管内内訳)
- 4 1 観光列車「志国土佐 時代の夜明けのものがたり」運行開始
- 7 4 詫間駅、観音寺駅、今治駅の3駅にて「みどりの券売機プラス」導入
- 11 2 8 高知駅前に「JRクレメントイン高知」開業

2021年(令和3年)

- 3 1 3 ダイヤ改正(土讃線「高知～土佐山田駅間」、徳島線「徳島～穴吹駅間」でパターンダイヤ導入)
- 9 1 6 今治駅前に「JRクレメントイン今治」開業
- 10 1 四国デザイン・セッションキャンペーン開催
- 12 2 7 初代「伊予灘ものがたり」ラストラン

2022年(令和4年)

- 3 1 2 ダイヤ改正(高德線「徳島～板野駅間」、鳴門線「池谷～鳴門駅間」でパターンダイヤを導入)
- 3 1 5 特急列車「しおかぜ」「南風」運行開始50周年記念キャンペーン開始
- 4 1 徳島バス株式会社との共同経営計画実施
- 4 2 「伊予灘ものがたり」2代目車両デビュー
- 11 2 4 チケットアプリ「iこくスマートえきちゃん」先行稼働
- 11 3 0 兵庫県姫路市に「JRクレメントイン姫路」開業

2023年(令和5年)

- 3 2 9 東京セファイの株式取得(子会社化)
- 5 2 0 運賃改定実施

JR四国グループ

運輸セグメント

主な事業	住 所	TEL
ジェイアール四国バス(株)	〒760-0011 高松市浜ノ町8番33号	(087) 825-1717
四鉄運輸(株)	〒760-0011 高松市浜ノ町8番33号	(087) 822-7662

ホテルセグメント

主な事業	住 所	TEL
(株)JR四国ホテルズ	〒760-0011 高松市浜ノ町1番1号	(087) 811-1115

駅ビル・不動産セグメント

主な事業	住 所	TEL
JR四国不動産開発(株)	〒760-0071 高松市藤塚町3丁目19番45号	(087) 812-2266
JR四国ステーション開発(株)	〒760-0011 高松市浜ノ町8番24号	(087) 823-2014

飲食・物販セグメント

主な事業	住 所	TEL
四国キヨスク(株)	〒760-0021 高松市西の丸町12番12号	(087) 851-0171
(株)めりけんや	〒769-0203 綾歌郡宇多津町浜三番丁36番地2	(0877) 49-6111

建設セグメント

主な事業	住 所	TEL
四国開発建設(株)	〒760-0001 高松市新北町27番10号	(087) 802-6012
四国電設工業(株)	〒760-0013 高松市扇町1丁目1番48号	(087) 822-6218
本四塗装工業(株)	〒760-0004 高松市西宝町三丁目5番26号	(087) 802-3525

ビジネスサービスセグメント

主な事業	住 所	TEL
(株)ジェイアール四国企画	〒760-0011 高松市浜ノ町8番24号	(087) 851-6885
四国鉄道機械(株)	〒764-0017 仲多度郡多度津町西港町27番地	(0877) 32-5191
(株)ジェイアール四国コミュニケーションウェア	〒760-0011 高松市浜ノ町8番24号	(087) 821-4520
(株)ジェイアール四国メンテナンス	〒760-0011 高松市浜ノ町8番24号	(087) 821-1204
JR四国情報システム(株)	〒760-0011 高松市浜ノ町8番24号	(087) 821-4570
東京セフティ(株)	〒761-8056 高松市天神町791番地1	(087) 866-7150
(株)駅レンタカー四国	〒760-0021 高松市西の丸町12番12号	(087) 825-9336

事業所

- 本 社 〒760-8580 香川県高松市浜ノ町8-33
- 愛媛企画部 〒790-0062 愛媛県松山市南江戸1-14-1
- 徳島企画部 〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1-61
- 高知企画部 〒780-0061 高知県高知市栄田町2-1-17
- 東京統括部 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-12-4 赤坂山王センタービル9階
- 大阪営業部 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田2-8-11 共栄ビル3階



四国旅客鉄道株式会社

